



第105号
北海道教育大学
青陵会

(北海道教育大学岩見沢校同窓会)

会長 早瀬 公平

印刷 北海道社会福祉事業団福祉村
(TEL 0126-45-2300)



〈題字は岩教大、藤根信章元教授の揮毫によるものです〉

- も ○巻頭言…1 ○「二紀展」入賞者から…2 ○上川支部紹介・十勝帯広支部紹介…3
- く ○退職支部長からのメッセージ…4 ○各学科卒業生代表のことば…5
- じ ○各学科の活動状況…6～7 ○公務員・民間部会の紹介…8

「同窓会に対する夢」

北海道教育大学青陵会 副会長 石塚 信彦



青陵会の会員の皆様
には日頃から会の活動
に対し、ご支援・ご協
力を賜り、厚くお礼申
上げます。

さて、私たちの卒業した大学は芸
術・スポーツ文化学科に転換し、教職
以外への進路に進む卒業生が多く、
近い将来、教員が運営してきたこれ
までの同窓会を根本から見直す必要
があります。

そのため、昨年から「同窓会あり方
検討委員会」を組織し、今後の会のあり
方について検討しているところです。
現在最も重要な課題は卒業生の本
会への入会であり、そのため、会費
の納入方法やSNSの活用など様々
な内容を検討しています。

一方、教員の会員は減少するもの
の、いなくなることはありませんの
で、これまでのように教員の資質の
向上を図る活動も継続する必要があ
ります。

来年の総会の折には、いくつかの
具体的な案を提示する方向で現在作

業を進めているところです。

さて、スポーツや芸術を中心に様々
な職種に就いた卒業生の皆さんは将
来確実に、それぞれの分野で中核と
して活躍される時が来るものと考え
られます。

その時同窓会が様々な職種を含む
ネットワークを構築し、会員と会員
を結びつける役割を果たすことがで
きたらと願っています。

例えば、これから就職する学生や
転職を考える会員が、全世界に散ら
ばっている会員から必要な情報を得
たり、あるいは会社を経営している
卒業生が会のネットワークを活用す
るなど、将来の同窓会には、これま
でにない可能性を秘めているような
気がします。

また、これは私の思いになりますが、
芸術やスポーツには、人種や文化の違
いを越えていく力があると思います。

広島平和記念資料館でご覧になつ
た方もおられると思いますが、展示の
中に、男性の先生を中心に多くの子ど
も達が写っている写真がありました。

子ども達の笑顔は、その後の悲劇
を一層強く際立たせており、私は今
でも忘れることができません。

正田 篠枝氏の短歌に、「太き骨は
先生ならむ そのそばにちいさきあ
たまの骨 あつまれり」とあります。

当時アメリカ人が日本人を同じ人
間として見ていたならば、このような
大量虐殺は起こるはずありません。
アメリカでは戦後、キング牧師の
暗殺があったように、つい最近まで、
極めて人種差別的な強い国で、現在で
も深刻な問題となっています。

このような人種差別や偏見を少し
でも解決し、平和な世界に近づける
ためには、卒業生の皆さんがこれか
ら様々な世界で活躍され、とりわけ
スポーツや芸術を通して人と人とを
結びつけていくことが重要な役割を
果たしていく
のではないで
しょうか。

後輩達その
のような活躍
を大いに期待
したいものと
私は考えてい
ます。



「二紀展」入賞 岩教大学院生の抱負



中村 まり子

描くことによるこび

自分にとつての母性や母なる存在という普遍的なテーマで作品を制作しています。胎内にいるようなやわらかい心地よさと包み込まれるようなあたたかさを感じられる作品を目指しています。絵の中に入って実際に触ったり埋まったりしたくなるようなムチムチ、プニプニという触感のイメージを大切にして描いています。油彩とテンペラの混合技法という技法を用いております。テンペラとは顔料に卵を混ぜて作る絵の具であり、油絵の具で暗い部分を描いた上から白のテンペラで明るく描き起こし、さらに油絵の具を重ねていくその繰り返しの中で出来上がっていく絵の具の層によって発色の良さや光を内包したような色彩を表現しています。

作品の構想を考えることを私はエスキースと言っていますが、それを一枚の絵としての構想に落ち着けるまでかなりの時間を費やしてしまいます。私の作品はイメージの集合体のようなものです。頭の中の小さなイメージ、大きなイメージを形にして線で描き、それらを一つの画面の

中でどう組み合わせていくかを考えるのですが、描きながら考えているうちにまた新しいイメージが浮かんでくると今度はその新しいイメージを基に別の画面構成を考え出してしまうったり、もともと考えていた画面のなかに取り込んでいったり。エスキースは時間がかかりますが一番苦しくもあり一番おもしろい時間でもあります。

制作している中で私が一番よろこびを感じるのには、画面に絵の具を塗り込んでいる瞬間です。塗る、乗せる、というよりは擦り込む、という感覚で、その絵の具の食い付きがモチーフの質感や量感にも繋がります。落ち込んでいる気持ちや苛つきも描くことで落ち着き、楽しくて仕方ないという気持ちに変わることも多いです。

今回二紀展で二紀賞をいただいたことで、今までやってきたことを認められたという気がするのと同時に、もつとやって良いのだという気にさせられました。

今後二紀展や道内外での発表活動に精力的に取り組み、また海外でも展示していきたいです。



小松 美月

生活を描くこと
発表活動で得たもの

私は現在大学院一年生として教育大学岩見沢校の油彩画研究室に所属しています。普段は自身の「日常生活」をテーマとして、「出会っては過ぎ去っていく生活の中にある幸せの感覚を忘れずにいたい」という思いで、実体験とその記憶を元に制作しています。

つらい時や悲しくなった時、小さい頃に過ごした家の布団の柔らかさや、大切な人と食べた料理のあたたかさを思い出して救われるときがあります。自分にとつての、また誰かにとつての、そんな存在となるような素朴であたたかい絵画を目指して日々制作に励んでいます。

並行して、私の敬愛する画家であるピエール・ボナールについての研究も行っています。大学院生になり学部生の頃よりも研究という要素が強まったことで、感覚的にいいなと思っていた表現などを言葉として理解できるように、自身の表現が深まっていくのを感じます。

院生としての二年間は作品発表の機会を積極的に増やし、学びに繋げていきたいという思いがあり、毎年出品している研究室展に加え、昨年五月にアルテピアッツァ美唄にて個

展「いとしい日々について」を開催、十月には本州の公募展である「二紀展」に出品しました。二紀展では初出品でしたが奨励賞をいただくことができました。驚きや喜びとともに、身が引き締まるように感じ、より一層制作意欲が湧きました。

発表の場があることで、作品を主観的な目線から一度切り離し、客観的に見ることができるようになります。また、鑑賞者や先生方からの言葉で新たな視点や次への課題が見えてきます。そうした意味で、昨年は発表を通して様々なことを吸収し、成長することができたと感じています。

来年度は在学する最後の一年になります。引き続き意欲的に発表活動も行いながら、穏やかに楽しく、自分らしく制作を続けていけたらいいなと思っています。



支部だより



活性化を見据えて
上川支部事務局長
倉本 格 克
(旭川市立千代田小学校)

「親しみ合い、連なり合い、励まし合う」を活動方針として、上川支部の活動は推進されています。

上川支部は、会員数が七十六名おり、現職会員は五十六名・OB会員が二十名となっています。校長三名、教頭三名、主幹教諭一名。さらに、今年度は宗谷管内で校長採用一名、オホーツク管内で教頭昇任一名など活躍の場が広がる一方、上川支部の運営は厳しい状況になっています。

ここ数年新入会員は他管内からの転入や新採用等を含め二・三名程度であり、様々な情勢からみて、会員の増加を期待できる状況にはありません。そんな中、会の活性化が大きな課題となっています。そこで、様々な活動への参加者を増やすことで会員相互のつながりを強化することが重要であると考え、年三回開催する役員会で様々な対策を検討し、若手教諭が参加しやすいように日程調整をするなどの対策をとってきました。その結果、懇親会等に出席する顔ぶれにも変化が見られ、若年層の出席も期待できる状況になっています。今後も鈴木支部長のもと、会の活性化

化に努めたいと思います。

【会の活動状況】

- 四月：定期総会及び懇親会
- 五・十一月・二月：役員会
- 六月～九月：支部研修会（二回）
- 八月：OB懇親会
- 十月：現職交流会
- 一月：新年会・御勇退激励会



<新年会・御勇退激励会参加者>

この他にも、各友誼同窓会総会後に開催される懇親会への出席を通し、貴重な情報交換を行っています。また、例年七月には北海道教育大学友誼同窓会教育懇談会・懇親会が開催され、各友誼同窓会の懇談を通して信頼関係を強固なものにしています。今後も小さいながらもチーム教育大の一翼を担う責務を果たせるよう、支部の活動を推進したいと思っています。



「会員の広がりをめざして」
十勝帯広支部事務局長
上坂 寛
(帯広市立光南小学校)

○ はじめに

岩見沢校は平成十八年度の学部課程の見直しにより教員養成課程がなくなり、新たな会員の加入が減少しています。青陵会十勝支部と帯広支部は平成二十八年度に合併して青陵会十勝帯広支部とし、活動の一層の充実を図っています。

今年度は、五月十日に総会を行い、大熊孝史会長のもと現役会員八十六名、OB会員二十四名で活動がスタートしました。

○ 活動方針

- ・ 会員相互の研修の充実と情報交流に努める。
- ・ 青年会員、中堅会員などの組織化に努める。

○ 今年度の主な活動

- 五月 総会
 - 六月 第一回役員会
 - 七月 十勝帯広青陵会研修会
親睦交流会
会報「ぎずな」発行
 - 十二月 若手会員交流会
 - 一月 新年交礼会
 - 二月 会報「ぎずな」発行
- <十勝帯広青陵会研修会>

本部長理事長（岩見沢市立清園中学校長）小関文雄氏を講師に「今日的な教育課題について」ご講演をいただきました。管理職のみならず一般の会員も参加がありました。今後とも若手会員にも積極的な声掛けを行い、会員のニーズに合わせて幅広い研修を行っていきたいと考えています。

〈交流会〉

研修会後の交流会、若手会員交流会、新年交礼会と年三回、会員が交流できる場を設けています。最近では若い会員の参加が多くなっています。気軽に参加できるように呼び掛けを行っています。

〈会報「ぎずな」の発行〉

会長・副会長の「巻頭言」、「各部の活動報告」、「会員の声」などの内容で、年二回発行しています。

○ おわりに

今後も、十勝管内に就職した方の「発掘」「組織化」と「会員相互の親睦と資質の向上」を活動の基本としながら、各種研修会を充実させるとともに懇親会を開催して参りたいと考えております。

また、本部との連携を深めるとともに全道各支部の皆様との情報交流に努めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願います。

退職支部長からのメッセージ



「自分を育ててくれた
諸先輩に感謝」
石狩支部前支部長
加藤 理恵

「理恵ちゃん、学校の先生に向いているね。そして、岩見沢分校はいい大学だし、僕の後輩になるよ。」という先輩の言葉で、教員になりました。今、振り返ると、素直に受けとめ、進路に迷わなかった自分でも、当によかったと思います。

新赴任は後志管内の喜茂別町で、初めての一人暮らしでしたが、地域の人々の温かい支えがあり、安心して生活することができました。楽しく充実した三年間が過ぎ、親元の石狩管内へ異動となりました。青陵会石狩支部会員となり、夏季研修会等に参加しました。知っている先生方とお会いすると安堵感があり、いつも出席してよかったです。学級経営や指導方法の相談にもお世話になりました。先輩の経験をもとにした助言は、翌日から活かせる具体的な内容で、また若く至らなかつた自分にとって貴重なものでした。一会員から広報部・研修部・学習部の構成員となり、企画、運営の業務に携わることになりました。仕事の内容を知れば知るほど、諸先輩が築いてきた並々ならぬ同窓会への思いや願いにふれることができました。

長い歴史を経ても変わらないもの、そして変えていかなければならないことなど、たくさん勉強をさせていただきました。自校の仕事だけでは身に付かなかつたであろう渉外力や調整力を培うことができました。

そして、管理職への道も拓かれていたのだと思います。ごく自然な私たちで教頭になり、その後、会計・事務局次長・事務局長・支部長を担い、使命と責任を心にとめ邁進しました。石狩支部は、指標『磨き合い、ふれ合い、響き合い』のもと、各部が連携を図り、各種事業に取り組んでいます。教頭時代、困ったり悩んだりした時にまず問い合わせるのは、同窓の仲間でした。

どんな小さなことでも、恥ずかしくなく聞けるありがたい存在です。それは、校長になってからも同じでした。「共に考えてくれる友がいる」という心の支えは、学校経営の先頭をいくための勇気と活力になりました。道青陵の研究大会では、他管内の実践発表や教育の今日的課題についての講演があり、刺激を受けました。その後の懇親会では、各支部の皆様と情報交換をすることができ、同窓としての意識をより高めることができました。お世話になり、育てていただいた青陵会が、今後も充実・発展していくことを祈っています。



今、思う
「教育に人あり」
札幌支部長
磯島 年成

平成の終わりを感じながらの四月の新年度が始まり、五月には「令和」となつて新たな時代の幕開けとなりました。この時代の変わり目となつた今年度は、後から振り返ると、誰もが記憶に残る、思い出深い年度となることと思います。

そして、私にとっては、今年度、「退職を迎える年」として、特別な想いをもつた年となりました。退職の年でありながらも、今年度のこれまでの歩みは、新学習指導要領の全面实施の移行期間として、新たな教育の始まりに向けた取組が年間通じて行われ、いつになく忙しい年でもありました。

そんな多忙な中でも行事等が終わる度に「教師として、校長として最後の……」と、感慨深いものを時折感じたものです。

ここ五年間、札幌青陵会の事務局での仕事をさせていた中で、学生時代の先輩、後輩と会う機会を得たり、時には一緒に仕事をさせていただいたり、市内のみならず、道の懐かしい仲間と再会するなど、退職を迎えようとするこの時期に教職

についた原点である大学時代や新卒時代を改めて振り返ることが度々あったことを有り難く思いました。

私が大学に入学した年は、共通一次元年の年であり、道教大の札幌分校、岩見沢分校の統合問題に終止符を打ち、小学校課程を中心とした大学に生まれ変わった時期でもありました。

入学は、木造の体育館、卒業は、新築の体育館、途中、木造のサークル棟が取り壊され新たな校舎が建ち、キャンパス風景が年々変わっていききました。社会の経済研究室での入学。毎週月曜日に藤波教授のもとに集まり、「岩見沢市民憲章」を皆で唱和し、反省と目標を皆に誓うことを四年間継続したことを始め、羽根球部・添削バイトの経験等々：大学生活を懐かしく思います。

大学の生活から四十年余り、いろいろな先輩・後輩と出会う中で、憧れの存在として目標にしたり、褒められ、認められ自信となつたりと、教育に携わつての人との出会いがいかに大きかつたかを改めて感じているところです。「教育は人なり」という言葉がありますが、私にとつては多くの人との出会いから「教育に人あり」という心境で今の職を終えようとしています。

卒業生代表のことば

音楽文化専攻

小西裕太



この四年間、音楽に囲まれた日々を過ごし、本当にたくさんの出会いと経験に恵まれました。毎年十二月には、岩見沢と札幌で日常の取り組みの成果を一般の方にも聴いていただける定期演奏会を行っており、これは毎年音楽文化専攻の教員学生一同が総力をあげて取り組む一大イベントです。青陵会の皆様のお力添えを賜り、今回も成功を収めることができました。本当にありがとうございます。

なにより私の思い出に残っているのは、今年度ソリストとしてピアノ協奏曲を演奏させていただいたことです。オーケストラとの共演はめったにない機会です。全体で音楽することの難しさも感じましたが、オーケストラの皆様も懸命に取り組んでくださり、本番では本当に楽しく、一生忘れることのない素晴らしい時間を過ごすことができました。

また、阿部博光先生にとつてご退官前最後の定期演奏会であり、オーケストラでは私も副科のヴァイオリンと一緒に演奏させていただくことができ、大変嬉しかったです。

これからも、この四年間で得た経験を生かして、支えてくださる方々への感謝を忘れず精進していきたいと思えます。

美術文化専攻

野上晴喜



教員になりたいという強い思いを抱き入学した岩見沢校での四年間は、とても短い時間だったように感じます。私は、美術文化専攻生として芸術分野を中心に勉学に勤しんだわけですが、大学を通して得ることのできた学びは、自分の今後の人生観に深く影響を与えるものとなりました。私が所属したゼミでの日々は、深い思慮と限られた経験、そして知識を振り絞りながら制作活動の糧となる毎日を通していただきました。そんな環境を与えてくださった教授には感謝してもきれません。

「全ての学びは深い結びつきがあり、それらは互いに作用し合っている。」三年次に行った教育実習で、自分が肌で感じた事です。私が大学生活で培った数々の教養と経験が血となり肉となつて「教育していく力」へと昇華していく。学校生活や授業を通して、生徒と深く対話し導いていく過程の中で、誠実であることにプラスして伝えたいことを偽りなく伝達することが生徒のためになると

いうことに気づく事が出来たのは、岩見沢校で過ごした四年間があつてこそだと思えます。

芸術・スポーツビジネス専攻

住永梨帆



入学当初はまだまだ先だと思つていた卒業が目前に迫り、この四年間は駆け抜けたと同時に大変充実した大学生活を送れたと実感しています。岩見沢校は様々な分野に興味を持ち、活躍する学生の多いキャンパスです。その中でも芸術・スポーツビジネス

専攻は特にバラエティ豊かな学生が多いと実感しています。しかし、それぞれがそれぞれの興味関心について決してネガティブな印象を持つことなく、互いにリスペクトしあえるとともに刺激も多い良い環境でした。舞台芸術に関する仕事に就きたいと高校生の頃に目指して入学して以来、授業のみならず学外でも舞台芸術に積極的に触れてきました。

自分のやりたいことに集中してとことん追求できる環境だったからこそ学びが多く、就職活動でも活かせることで希望の業界に進めたのだと感じます。四月より新天地での生活が控えています。この四年間で学んだこと、感じたことを忘れず社会に出ても日々を充実したものに出来るように励んでいきたいです。

スポーツ文化専攻

小川達也



卒業を迎え、四年間を振り返りますと、ある先生に頂いた『学び続ける姿勢を持って』という言葉が思い出されます。この言葉は私の心に残り、学業、部活動、研究活動に対し努力を惜しまず続け、自分自身を高める原動力となりました。しかし、物事に取り組みあつたつて価値観が異なる相手と対立し、思い悩むことがありました。

異なる価値観を持つ者同士では、同じ目標を持っていても考え方や行動の仕方が全く別のものになると、身をもつて経験したのです。

しかしある時、相手なりの正しさがあること、相手から学ぶこともあると気付きました。第三者の目線に立ち、相手と自分の価値観の違いを客観的に捉えられたとき、それまでの問題が瞬時に解決したのです。

この経験から、全ての事から学ぶものがあること、多様な視点で物事を捉えることが、人間関係や問題解決の打開策になることに気付きました。これも「学び続ける姿勢を持って」の恩師の言葉があつたからであり、今後の人生においても大きな財産になると感じています。

各 学 科 の 活 動 状 況

「美術文化専攻の日常活動」

藤原知世

私たち美術文化専攻は、「美術・デザインコース」「書画・工芸コース」「メディア・タイムアートコース」「美術文化教育コース」の四つのコースに分かれ、彫刻、書、工芸という伝統的な分野から、現代美術、映像メディア、デザイン、イラストレーションなどという比較的新しく広範囲な表現分野と、アートマネジメント、美術理論、美術教育という理論分野を学んでいます。

二年生から各研究室に所属し、より多くの専門的な知識と表現方法の習得を目指して活動する日々です。その成果を発表する場として、学生が主体となり展示会の企画・開催やワークショップ等イベントの実施を行っています。また、コースや研究室を越えて行う作品制作や展示活動は、専攻内の親睦を深めるとともに、お互いの表現の良い部分を吸収し合いい、多様な表現の理解へと繋がっています。

写真は、油彩画研究室での制作の様子です。研究室では主に授業やゼミ活動のほか、様々な学年の学生が同じ空間で制作や活動を行っています。



す。学期末には、研究室内で作品を見せ合う講習会を行います。講習会は、自分の作品を見つめ直す貴重な機会です。講習会で教授や他の学生から得たアドバイスを反省点を受け止め取り入れていくことで、次の作品がより良いものへと進化していきます。

私たちは自身の表現方法を追求し、表現者としての美術に関する造詣や

確かな技術を身につけ、諸問題を切り開く為の構想力を培うため、日々学習に励んでいます。ですが、それと同時にもっと多くの人に美術の面白さや楽しさを知ってもらいたい、身近に感じてもらいたいという想いが私たちにあります。美術文化を地域社会に広め、美術の力で地域活性化

を促していけるような存在になれるよう、これからも絶えず表現することを続けていきたいと思えます。

「ビジネス専攻の日常活動」

高橋由珠

ビジネス専攻では、全学年を通して地域に密着した活動を積極的に行っています。一年生から地域プロジェクトIという科目が始まり、三年生になるまでに地域プロジェクトII、IIIを行います。

授業内容はいずれも地域の方々と連携してイベントに参加したり、三年生になると学生たちで企画をします。このようにビジネス専攻では入学してから卒業する間に多くの地域イベントに関わることが出来るため、地域の方々ともたくさん接することが出来ます。

また、昨年度からの取り組みとして、一年生と二年生は政策学概論や文化政策学で学内を盛り上げる様々なプロジェクトを実施しております。このプロジェクトは、ビジネス専攻だけでなく、他の専攻も巻き込んで行うのが特徴的です。学内にも目を向け、日々生活することで見える学生のニーズに自分たちで向き合うことで、より良いキャンパス作りに取り組んでいます。

そして三年生は地域活性化プロジェクト

クトにおいて、毎年恒例となつている栗沢町の「大地のテラス」と連携したイベントを行いました。今年は「はらっぱ教室」というタイトルで、敷地内を学校に見立て、理科班、体育班、図工班の三つのグループに分かれイベントを企画・実施しました。理科班ではバスボムやスライム作り体験。体育班は、水鉄砲を使った的当てやサバイバルゲーム。図工班は、手作りハーバリウム教室を赤電内で実施しました。主に親子連れの方をターゲットに活動を進めていきました。夏休みの自由研究や思い出作りのために多くの方に参加していただき、当日は例年以上の来場数で大盛況に終わりました。



また、今年度から、地域と芸術を繋ぐアートマネジメントをテーマにした「万字線プロジェクト」という新しいプロジェクトがスタートしました。

そのオープニング企画として三年生が地域プロジェクトⅢにて、廃校になった旧美流渡中体育館で「森の学校ミルトで遊ぼう」を行うイベント班、アーティストファミリアレジデンスにて製作記録作成を行うアーカイブ班、そしてマネジメントゲーム班に分かれ、本プロジェクト第一弾として盛り上げました。三年計画のプロジェクトのため、次年度の活動にも力を入れて取り組んでいきます。

「スポーツコーチング科学コースの活動」

飛林 麻 耶

スポーツ・コーチング科学コースでは、競技スポーツやフィットネス、アダプテッド・スポーツなど、それぞれの特性を理解・研究して、実践を通し地域の未来を開拓していくために日々勉学や部活動に励んでいます。私は、アダプテッド・スポーツ研究室に所属し、活動しています。アダプテッド・スポーツとは、子どもや高齢者・体力の低い方など、誰もがスポーツを楽しむことができるよう、実践者に合わせてルールや用具を工夫したスポーツのことです。

現在、普及活動を行っており、教育の一環として小中学校へ出向き、出前授業も行っています。健常者や障害者問わず、障害理解の授業を行ったりしています。実際に体験も行う

ています。これらの活動をするにあたって、誰にでも伝わりやすい指導を心がけています。普段は選手としてスポーツ活動に取り組んできましたが、指導する側の立場に変わり、違う視点から指導することによって幅が広がったように思います。

このように、時代に見合った多様なニーズに対応するため実践を通して、指導スキルを身につけることが自分にとって深い学びに繋がっていきましました。今後も、ここで得た学びを生かし、様々なことにチャレンジしていきたいと思っています。



「音楽文化専攻」

村 田 妃 菜 子

今年度、私たちは令和元年度北海道教育大学岩見沢校芸術・スポーツ

文化学科音楽文化専攻定期演奏会を十二月十日（火）と十一月十一日（水）に大盛況のうちに終えることができました。今年度は昨年度の来場者数九九九人を超え、岩見沢公演、札幌公演合わせて一〇三六人の来場者数になりました。

この演奏会は、音楽文化専攻の学生全員で行うものとなっており、世界でも有数のホールと謳われている札幌コンサートホールZ.arenaで多くの人に音楽を聴いていただき、北海道教育大学岩見沢校をより多く知ってもらふことと、学生の研鑽を積むことを目的としています。

毎年、吹奏楽、オーケストラ、協奏曲、弦楽アンサンブル、合唱という編成ごとに学生と先生方と話し合い、プログラムを決定しています。

今年度、吹奏楽では准教授である渡部謙一先生の指揮で、西村朗作曲「秘儀Ⅶ△不死鳥▽」を、オーケストラではG・マラー作曲「交響曲第一番《巨人》」より第四楽章を教授である阿部博光先生の指揮で演奏しました。また弦楽アンサンブルでは特任教授の長岡聡季先生のご指導のもと、N・ロータ作曲「弦楽のための協奏曲」を、合唱では上田真樹作曲「夢の意味」を長岡聡季先生の指揮で演奏しました。

また、その他毎年オーケストラバック又は吹奏楽バックで演奏するソリス

トを厳正なオーディションにより今年度は二名選考し、ピアノの小西裕太さん（四年）がS・ラフマニノフ作曲「ピアノ協奏曲第二番」より第三楽章を演奏、そして、テューバの渡部のどかさん（四年）がP・スパーク作曲「テューバ協奏曲」を演奏しました。また、上田真樹さんが札幌公演でいらして下さったこと、阿部先生にとつての最後の定期演奏会だったことから、学生たちにとつても印象深い演奏会となったと思います。このような貴重な体験を得ることができましたのは、青陵会の皆様方のご支援のおかげです。深くお礼申し上げます。



北海道教育大学青陵会 公務員・民間部会

「空知を代表するIT企業へ・・・」

北海道ギフト贈り物専門店北海雪月花株式会社 ZAWA.COM

代表取締役社長 佐藤直輝氏



株式会社ZAWA.COM
代表取締役社長
佐藤直輝(さとうなおき)
一九八三年五月九日
室蘭出身

初めまして。公務員・民間部会に所属しております。株式会社ZAWA.COMの佐藤と申します。

当社は平成十六年まちづくり会社として創業。平成十九年に法人化を行い、駐車場・不動産管理、イベントの企画・運営事業を主軸に展開して参りました。平成二十五年に代表取締役就任し、通信販売や企業HP制作などのIT事業に本格的に参入致しました。



一つ目の通信販売事業については

北海道ギフト・贈り物専門店「北海雪月花(ほつかいせつづつか)」という屋号で約七百商品のギフト商材を取り扱い、現在は楽天市場店・ヤフーストア店・ZUI WOWER店・自社公式サイトとの四つのオンラインショップを運営しております。遠くは九州・沖縄、関西圏や関東圏はもちろんのこと年間約二万件のご家庭に発送を行っております。また岩見沢が米処という事もあり当社オリジナルのお米ギフトをプライベートブランドとして展開しております。

二つ目のIT事業については紙媒体(チラシ・ポスター・名刺等)のグラフィックデザインやWEB媒体(会社HPやECサイト)のデザイン制作を主に行っております。その他通信販売事業の中で得た知識やノウハウを基に他社ECサイトのコンサルティング業務も行っております。

WEB関連の人材においては首都圏に集まりやすく、私達のような地方における人材確保は非常に難しい中、当社ではスキル・技術共に有能なWEBデザイナー・WEBコー

ダー・WEBデザイナーをそれぞれ抱え、空知を代表するIT企業として日々お客様のサポートをさせて頂いております。

またドローンを活用した動画制作やアプリ開発、ゆるキャラや萌えキャラといったイラストデザインにも強く、様々なご依頼にご対応しております。

CSR事業としてはSDGs「11・7」に参画し、ユニバーサルデザインには当社名義で設置する自動販売機の手数料収入の一部を地元の社会福祉法人へ寄付しております。



当初三名からスタートした会社ですが、現在は二〇名の従業員がおり、地域の雇用創出にも寄与して参りました。これからも空知を代表するIT企業として地域の活性化に寄与できるよう努めていきたいと考えております。

北海道教育大学青陵会
総会兼研究大会・教育懇談会のご案内

日時 2020年5月16日(土) 研究大会15:15~
会場 平安閣
会費 5,000円(予定)

- ※ 総会後の研究大会は、全会員が参加対象です。多数の参加をおまちしています。
- ※ 後日、詳しい案内を各支部に送付しますので、参加者の取りまとめをお願いします。

編集後記

今年には暖冬で雪が少なく暮らしやすい一方農作物が心配です。さて今号に玉稿をいただきました皆様にご心より感謝申し上げます。

《広報・情報発信担当》

- 部長 松田 直(美・中央小)
- 副部長 江幡 佳代(三・岡山小)
- 部員 一ノ瀬 健太郎(赤平中)
- 沢 泰宏(岩・第一小)
- 小野寺 英樹(美・峰延小)